

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成 30 年 5 月 31 日現在

今月の重点活動

■宮川小学校 食味コンクール国際大会出品に向けて出前授業

飛騨市立宮川小学校（飛騨市宮川町）では、以前から郷土学習の一環として稲作体験を行ってきたが、今年は収穫したお米を「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」の小学校部門に出品する予定である。

5月14日に宮川小学校で開催された田んぼの学校活動事業の出前授業では、農業普及課から「飛騨のお米について」と題して講演を行った。当日は3年生から6年生の12名の児童を前に飛騨地域の稲作に関する状況や美味しいお米づくりに取り組む理由などを解説したところ、児童たちは地元で色々な種類のお米が作られていることなどを知って感心し、自分たちもコンクールでの入賞を目指して美味しいお米づくりにチャレンジしようと意欲的になっていた。

農業普及課では、今後も宮川小学校の稲作体験を支援するとともに、様々な機会に国際大会をPRし、地域全体で美味しいお米づくりに取り組む機運を醸成していく。



【出前授業の様子】

新たなブランドづくり

■スナップエンドウ 高山スナップエンドウ目揃会

高山野菜出荷組合高冷地野菜部会が栽培するスナップエンドウの出荷がいよいよ始まるため、出荷目揃会が開催された。生産者は規格や傷などの分類について熱心に質問し、出荷に備えて確認した。

トマトなど夏野菜の出荷前の生産品目として拡大しており、今年度は3名増えて11名で生産している。

農業普及課では、7月上旬までの短期間ではあるが、草勢を落とさない管理について説明を行った。



【目揃会の様子】

多様な担い手づくり

■指導農業士 長年の担い手育成にかかる指導に感謝！！～農業士退任～

5月14日に高山市で岐阜県指導農業士及び青年農業士の総会等が開催され、県内各地域から農業士及び関係者133名が出席した。総会に引き続き、感謝状贈呈式・認定証交付式があり、長期にわたり指導農業士を務めた14名の指導農業士及び16名の青年農業士に感謝状が贈呈された。

退任される指導農業士を代表して、国府町の船坂さんから長年の指導農業士活動を振り返り「いろんな品目を栽培している前向きな沢山の経営者や関係機関の方に出会えて楽しく過ごした。農大生や高校生の研修生も沢山受入れ、今でも交流のある方もいて、改めて指導農業士として活動したことは大きな意味があった。」と挨拶をされた。

農業普及課では、指導農業士・青年農業士の役割を明確にし、今後も担い手育成にご尽力いただけるよう支援を継続する。



【農業士活動を振り返る】

■トマト 第1回吉城、高原地区夏秋トマト新規就農者勉強会を開催

農業普及課では、夏秋トマトの栽培経験が5年以下の新規就農者を対象に、JAひだトマト研修所において5月22日に勉強会を開催した。

勉強会では、育苗管理から定植後の管理までについて、先輩トマト生産者や営農指導員、関係機関からアドバイスを受け、栽培管理ポイントの習得に取り組んだ。また、新規就農者同士のコミュニケーションも図った。

農業普及課では、今年度6回の勉強会を計画しており、今後もトマト研修所、JA等関係機関と連携しながら、新規就農者の夏秋トマト栽培技術向上に向けた指導と、産地の活性化を図る予定である。



【勉強会の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 優良種子の安定生産を目指して

丹生川採種生産組合では「コシヒカリ」をはじめ、「たかやまもち」「ひだほまれ」等の水稲種子を生産しており、5月14日に育苗状況を確認するため、苗代調査を行った。

農業普及課は組合役員、JA等関係機関と協力し、組合員14戸（育苗している組合員のみ）の育苗ハウスの巡回を実施し、苗の生育、病害等諸障害の有無、管理状況を確認、今後の管理について助言等を行った。

今後は気象等の変化、病害虫の発生状況等の情報提供を行い、優良種子の安定生産に向け各種支援を行っていく。



【育苗ハウスを巡回】

■果樹 モモ・リンゴ摘果講習会を開催

5月28日に高山市果実組合では、モモ・リンゴの摘果講習会を飛騨高山高等学校山田校舎の果樹園にて実施した。

今年度の果樹の生育は、例年に比べ10日程度前進していることから、農業普及課ではモモ・リンゴの摘果技術と病害虫等に関する情報提供に加えて、作業に遅れが出ないように適期作業の励行について、講習会を通じて指導を行った。

また、当日は会場でもある高等学校の生徒の参加もあり、メモを取るなど真剣に話を聞く姿が見られた。

今後、各生産者のほ場では仕上げ摘果が本格的に始まるため、農業普及課では現地巡回を通して良質な果実生産に向けた支援を行っていく。



【摘果講習会の様子】

■果樹 県育成のモモ新品種「飛騨おとめ」プロジェクトチームのキックオフ会議開催

5月17日、県立飛騨高山高等学校山田キャンパスにて、県育成モモ品種「飛騨おとめ」の振興を図る『「飛騨おとめ」プロジェクトチーム』のキックオフ会議が開催された。

会議にはチーム員であるJAひだ果実出荷組合事務局、JA全農岐阜、飛騨農林事務所と県立飛騨高山高等学校の教諭・生徒が出席した。

本プロジェクト活動は本年度で3年目であり、会議では過去のプロジェクト活動の総括ならびに本年度の活動について検討を行った。過去2年間は地元飛騨地域におけるPR活動を実施したが、本年度は地元に加えて岐阜市場でのPR活動を実施することとなった。

農業普及課では、「飛騨おとめ」の安定生産と品質向上のための技術支援とともに、当プロジェクトを通じて県内広域における知名度向上と消費拡大を図っていく。



【会議の様子】

■寒干し大根 すずしろグループ定期総会

5月8日に、JAひだ森茂支店において、平成29年度すずしろグループ定期総会が開催された。平成29年度事業においては、「奥飛騨山之村寒干し大根」が地理的表示(GI)保護制度に登録されたことや、飛騨市推奨特産品へ認定されたことが報告された。また、今年度については、奥飛騨山之村寒干し大根の生産・PRのために、作付勉強会や販売促進活動を実施することが決定された。

農業普及課では、栽培技術の向上や地域振興のために、今後も支援を行っていく。



【定期総会の様子】

■ほうれんそう 丹生川ほうれん草部会「若手の会」活動検討会

5月1日に丹生川地区において、丹生川蔬菜出荷組合ほうれんそう部会「若手の会」活動検討会が開催された。

今年度の活動及び資材試験内容についての検討を行った。

併せて、メーカーによる自動計量機の実演・説明が実施され、参加した生産者が実際に自動計量機を操作し、作業性等の確認を行った。

現在、飛騨ほうれんそう産地においては、調製作業の効率化が大きな課題となっており、自動計量機の導入により、どれだけ作業性が向上するのか、どのような人員配置が適切か等、熱心に意見交換を行った。

農業普及課では、今後も、生産者や関係機関と連携しながら、作業性の良い機器の導入や調製作業の効率化について、検討を行っていく。



【自動調製機実演の様子】

■ほうれんそう 産地の労働力問題解決に向けた取り組み

飛騨ほうれんそう産地の大きな課題の一つとして「労働力不足による産地基盤の縮小」が挙げられる。そこで、県下の一大品目の産地維持・拡大を図るため、農業普及課では園芸産地補助労働力確保等実態調査事業（県）を活用し、労働力問題解決に向けた実態調査を行うこととした。

ほうれんそうは、収穫物の調整作業に多大な労力を要するため、調整作業の改善をメインテーマとして、調整作業場における現状把握（どのくらい時間がかかっているか等）や、生産者の要望（調整作業効率化に向け何を望むか）の聞き取りを行い、調整作業に関する改善提案及び実証を行う予定となっている。

労働力問題はすぐに解決することは難しいが、農業普及課としては今回の実態調査を契機に、産地及び関係機関とも連携し、あらゆる手段について検討・実践を進めていきたい。



【調整作業の様子】

■養蚕 白川村で本格的な養蚕の復活に向けた桑園整備

白川村で、昨年より養蚕の復活を目指して、本格的な蚕の飼育を行ったが、桑園が無く、山桑を中心とした飼育だったため十分な品質の繭が生産できなかった。

そのため、5月2日に桑品種「はやてさかり」1,000本を10aに作付けた。成園になるまでには3年程度かかるが適正な管理を行い、良質な桑葉による良繭の生産に向けて一步一步進んでいる。

今年は、10aと少ない面積であるが、徐々に拡大を行い本格的な蚕の飼育を目指す。県内でも養蚕農家が激減し、現在ではわずか7戸程度、飛騨地域では皆無となっていたが、伝統ある養蚕業を復活させたいと、意気込んでいる。



【桑園の様子】